

第87回日本寄生虫学会大会

趣意書

会 期 平成30年(2018年)3月17日(土)~18日(日)

会 場 国立研究開発法人国立国際医療研究センター

大会長 狩野 繁之

(国立研究開発法人国立国際医療研究センター 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長)

ご挨拶

日本寄生虫学会は、寄生虫及び寄生虫学に関する学術の研究、進歩と普及を図ることを目的とし、昭和4年に設立されて第1回学術集会在開催されて以来、この度、第87回大会を開催させていただくこととなりました。

昭和の時代、特に戦後、わが国ではマラリア、フィラリア症、日本住血吸虫症の排除に成功し、土壌媒介寄生虫や吸虫の虫卵陽性者数は公衆衛生上無視できる数となりました。平成の世になり、国内には寄生虫疾患は“過去の病気”という認識がないとは申しませんが、見渡せばグローバリズムの敷延と共に、わが国には2020年の東京オリンピック・パラリンピックで3,000万人のインバウンドの旅行者が、少なからずの寄生虫と共にやってくると考えられます。アルテミシニン耐性熱帯熱マラリアは、例に漏れずメコン河流域から拡散し始めており、わが国への上陸を狙っているかのようです。先進国で唯一HIV感染者数が増えている日本では、アメーバ赤痢の国内感染例が年間1,000人に達しようとしています。いま再び、寄生虫が日本社会での居場所を主張し始めている様に思われます。

そろそろ平成の世が終焉し、新たな元号を待ち望む時期となりましたが、日本の寄生虫学者は、この時代に1錠の薬剤、1本のワクチンでも作ったでしょうか？ それどころか、1匹の寄生虫でも殺したでしょうか？マラリア研究者は、患者の命を1人でも救ったでしょうか？

ぼやぼやしていると、平成の次の世は寄生虫にとって「春爛漫」となろうかと、その様な杞憂を大会のテーマとしました。私たち寄生虫学者は、何のためにちっぽけな虫の研究を、医学領域の端っこでしているのか、ゴールをしっかりと見据え、出口戦略をもった取り組みが今こそ必要であると考えています。このテーマに沿った特別講演やシンポジウムを企画しています。

是非、皆様からのご支援を頂けると幸いです。

【開催概要】

名 称： 第 87 回日本寄生虫学会大会
主 催： 日本寄生虫学会
大会長： 狩野 繁之 (国立国際医療研究センター研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長)
テーマ： 「春爛漫の寄生虫」 (Parasites in all their glory)
会 期： 平成 30 年 (2018 年) 3 月 17 日 (土) ~18 日 (日)
会 場： 国立研究開発法人国立国際医療研究センター

開催計画の概要 (予定) :

基調講演、教育講演、ランチョンセミナー、一般口演、ポスター発表、
本大会中 (3 月 18 日 (日) 15:00~16:30 まで) ICD 制度協議会主催の
下記講習会 (予約制) を開催

「第 276 回 ICD 講習会、テーマ：薬剤耐性寄生虫症の感染対策」

大会 HP: <http://www.pco-prime.com/87jsp/>

参加予定数： 400 名程度

予 算： 800 万円程度

「第 87 回日本寄生虫学会大会」事務局

国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所

熱帯医学・マラリア研究部内

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

事務局 駒木加奈子

Tel/Fax : 03-3202-7287 E-mail: komaki@ri.ncgm.go.jp

「第 87 回日本寄生虫学会大会」運営事務局

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-13-10- 601

(株)プライムインターナショナル内 担当: 蓮池

Tel: 03-6277-0117 Fax: 03-6277-0118

E-mail: 87jsp_secretariat@pco-prime.com